

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施している。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂した。国立病院機構近畿グループ4校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指している。

学校評価(助産学科)最終評価結果

昨年度の評価をもとに、引き続き改善に取り組んだ結果、全体平均は3.0点(昨年3.0点)と昨年度平均点を維持している。項目別にみると、デジタル教材の活用、健康教室の取り組みから「VII.学校生活支援」、「X.社会への貢献・公開講座」は3.0点(+0.1ポイント)と改善した。一方、分娩実習施設が10施設にわたり、指導体制や調整の課題から「V.学校組織」が2.9点(-0.1ポイント)、施設の老朽化より「XI.教育環境」は2.8点(-0.2ポイント)と低下した。施設整備は計画的な修理が今後の課題である。

- その他、とくに次の4点について評価された。
- 1.教育課程:健康教育やOSCEなど、独自性のある教育内容を運営し、魅力ある学科になっている。
  - 2.教育課程評価・カリキュラム評価、卒業時の到達度評価が丁寧に行われており、教育運営に活かしながら一貫した活動を行っている。
  - 3.地域貢献:近隣施設の協力を得て「赤ちゃん講座」「ファミリー教室」等の教育活動を通して地域貢献が継続されている。
  - 4.教員の研究活動:意欲的に実施されており、研究成果の発表につながっている。専門性の高い内容についても研究時間の確保ができるとうよい。

赤字:昨年より上昇 青字:昨年より低下

評価項目	評価の視点	項目	R6年度		R5年度	
			相互評価	自己評価	相互評価	自己評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0	3.0	3.0	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業後教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	3.0	3.0	3.0	3.0
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0	3.0	3.0	3.0
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0	3.0	3.0	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	2.9	3.0	3.0	3.0
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0	3.0	3.0	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0	3.0	2.9	2.9
VIII 卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0	3.0	3.0	3.0
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	3.0	3.0	3.0	3.0
X 社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	3.0	2.9	2.9	2.7
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	2.8	3.0	3.0	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0	3.0	3.0	3.0
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0	3.0	3.0	3.0
全体平均			3.0	3.0	3.0	3.0

